

東京家政大・白藤プロジェクト

本県拠点活動で農水大臣賞



酒米栽培や食品開発

全国の大学生の団体を対象に、このほど東京都内で初めて開かれた「食と農林漁業大学生アワード」で、本県を拠点にして稲作、アレルギー対応食品の開発などを続けてきた東京家政大学（東京板橋区）の「白藤プロジェクト」が、最高賞の農水大臣賞に輝いた。

「白藤」は学生有志約30人によるグループ。長岡市の食品関連企業の仲介で、6年前から本県で酒米「白藤」の復活栽培に携わっているほか、小麦や卵アレルギーの人でも食べられるケーキの開発、小学校での食育講

座開催など幅広く活動している。

農水大臣賞を受けた「白藤プロジェクト」の発表を担当した野中さん、鮫島さん、松本さん（左から）＝東京板橋区の東京家政大

発表会には3年生の鮫島梨紗さん（20）、1年生の松本南美さん（19）、同大短期大学部2年の野中木乃実さん（20）の3人が参加。これまでの活動をスライドを使って紹介し、松本さんは「私もアレルギーがあり、生まれて初めて食べられたケーキが、米粉を使った白藤のものでした」と体験を披露した。

受賞が決まり、野中さんは「農業の実体験が栄養学を深めるのに役立っています。農家の皆さんの立場から発表できてよかった」と振り返った。鮫島さんは「私たちの活動を支えてくださる皆さんの力なしには、受賞できなかつたです」と本県の協力者に感謝した。